

行政視察報告書

委員会名	総務文教委員会 「特定事件 若者議会について」
派遣委員	委員10名 斉藤雄二委員長、田川浩司副委員長、藤原みどり委員、河合悠祐委員、川崎久範委員、平山杏香委員、金井俊治委員、田中宣光委員、吉岡健委員、小川利八委員
日程/場所	令和5年10月12日(木) 愛知県新城市(草加市役所本庁舎第1・2委員会室にてオンライン視察) 「若者議会について」
目的	若者の意見を市政に反映させるため、先進的な取組を行っている愛知県新城市の「若者議会について」の案件で行政視察を実施し、若者議会の導入に係る実現可能性について調査・研究を行った。
各委員からの報告 (内容、所感(意見・課題・本市への反映など))	<p>○斉藤委員長 新城市で行われている「若者議会」の成り立ちが興味深い。新城市は「世界で城を有する都市」が加入する世界新城アライアンス会議に加盟し、2012年にイギリスで行われた会議に新城市の若者4人を派遣。その若者たちは「世界各国の若者は日頃からまちづくりに関心を持ち市政に積極的に参加する姿勢や自国への高い愛郷心をもっている。自分たちは新城市のことをほとんど知らず、話せなかった。」ことに衝撃を受けた。新城市に戻ってから「ユースの会」を立ち上げ、徐々に規模を大きくして今の形に。世界の常識が日本の非常識であったのが始まりだったとは皮肉であったと感じる。同時に若者議会を通じて地域や行政、政治に興味を持ち、議論の結果、改善するプロセスの中で、行政職員や議員を多数生み出していることも重要。 地方議員の被選挙権は25歳であり、それ以下の民意の反映は難しい。新城市の若者議会のような現行の法制度では足りない25歳以下の民意反映という意味では草加市でもすぐに実現すべき案件だと感じた。</p> <p>○田川副委員長 新城市若者議会の成り立ちは世界の「新しい城」ニューキャッスルの名称がある都市との国際交流を通して、参加した若者がヨーロッパで行われている事例を地元でもできないかと提起したことからはじまった。市民提案型の政策を条例制定まで行い導入したものであり、若者の熱意と行政の度量の深さを感じた。新城市には高校2校が設置されている。一方、本市は高校4校、大学1校があり導入に向けた条件は恵まれている。しかし、行政主導で募集した場合、やらされている感を持たれる可能性がある。本市に在住、在学、在勤されている対象年齢の若者や団体からの声を生かした事業が望まれる。 今回はWeb会議での視察となり、若者議会議員の声が直接聞けなかった。新城市へ出向き、若者の熱意を感じたかった。</p> <p>○藤原委員 オンラインでの視察となりましたが、様々なお話を伺うことができ、大変勉強になりました。 国際交流により若者が活躍できる場を我が地域にも作ろう！との若者の思いからスタートし、その声を大切に守り育て、条例を制定して、代々変わることなく若者が活躍できる場を確保し、予算をつけ、具体的な政策へと繋げてきたことは素晴らしいことだと思いました。9期にわたり300人の若者が携わり、連帯の絆が育まれていること自体、市の財産であることは間違いのないと思います。</p> <p>○河合委員 新城市での若者議会の運営方法について詳しくお伺いした。特に疑問点であった若者議会の委員の選考方法、構成員の属性・バランス、進行スケジュールについて、また、どのようなアイデアが実際に事業化されているかや事業の継続性等について、具体的なイメージを掴むことができた。 草加市は、投票率が埼玉県の中でも下位となっており、特に若い層に政治参画してもらうための施策を打つ必要がある。その点を鑑みると、若者議会を早期に草加市でも採用することは必須であると考えます。</p>

○川崎委員

新城市の若者議会は、新城市からニューキャッスル・アライアンス会議（同じ名前の都市＜ニューキャッスル＝新しい城＝新城＞が同盟を結んで、2年ごとに話し合いや交流を行う国際会議）に参加した学生のボランティア活動を、市が支援したことからスタートした事業。その活動にメンターと役割付けられているOBや、若手の市の職員が携わることで、継続して事業が維持されている。初めての人でも入りやすい雰囲気づくり（すごろく等の活用）がなされ、若者議会委員になると同時に加入することになる若者議会連盟が、フィードバック等の活動のフォローをしている。

参加者は概ね16歳から29歳までで、応募者多数の場合には、書類審査が入る。審査は、応募者がまちの課題やどういうまちにしたいか等を記述して提出。それに点数がつけられ判断される。

片側では、事業が条例化されており、そのことで継続して取り組まれている側面もある。実績としては、これまで約50の提案が可決されている。効果としては、町の仕組みやまちそのものの理解が参加した若者に培われることが挙げられる。

課題は若者の意見と実効性に差があること。将来の展望に関しては、まだこれからの検討となる。

草加市においても、若者の市政及び政治への関心を養う意味でも、新城市の取組を参考にしながら、若者議会を進めていき、次世代への投資を行うべきだと考えます。ただ事業として継続していくためには、若者議会委員の成り手を育成する仕組みと議会後の若者へのアフターフォローを行う仕組みがキーになるかと。例えば、議会勉強会のような、若者議会委員になる前の準備期間を設けることで、誰でもスムーズに活動ができるよう助走期間を設けてはどうか。また議会後は反省会兼親睦会を設けて、「また参加したい」と思わせる投げかけを継続的に行うようことは必須だと考えます。

○平山委員

選挙権も被選挙権もない若年層（高校生から）もそのまちの住人として、若者議会は、行政の意思決定や事業に政治参加できる画期的であり先進的な取組でした。実際に若者議会でアイデアを出し予算がつき、それが実現されるという結果が形に残る仕組みです。若者議会の当事者や関係した人口も含め、まちに対する思いや、政治や行政への興味関心の向上に非常に有効であるのではないかと感じます。是非わがまち、草加市にも導入を前向きに検討していくべきだと考えます。

○金井委員

少子高齢化が進む中、少数意見である若者の声を市政に反映させるべきだと思いますし、若者の声をいかに市政に反映させるかが他の自治体同様に草加市にとっても課題となっていることと思います。

愛知県新城市では、若者議会を設置し、若者の声を市政に反映させる取組を行っております。

行政側としては、単発の会議やセレモニーのような議会を開催することで、負担を軽くし、若者の声を聴いているにすることも考えられますが、新城市は参考とするような自治体の事例もない中、現在の取組のように、高校生や大学生を若者議会委員として選任し、それをサポートする市民の代表、職員の代表という構成で年間を通し、議論を重ね、上限1,000万の予算提案権を与え、事業の予算化を実現しております。そのことで、若者にとって見える形で成果や成功体験が生まれ、行政にとっても、若者の発想で、日頃目が届かない部分への支援に結びついているのではと考えます。

新城市は、今回で若者議会9期目を迎え、今までも、これからも、市長が変わっても若者議会の取組が継続をしていけるように、条例化されております。

新城市のように予算化ありきですと、若者議会の設置に踏み切るのは、二の足を踏みそうですが、まずは、単発の会議や議会ではなく、若者の意見を反映させる場としての、草加市の実情に合わせた若者議会の設置を望むものです。

今回は諸事情があり、オンラインでの視察となりましたが、実際現地に視察に行き、機会があれば若者議会の議員さんの声なども直接聞いてみたかったです。

○田中委員

若者議会は、自らが社会の一員であることを自覚することにより、若者の政治参画を促し、社会課題に対して、若者視点での解決策を提案することができる。特に、新城市の若者議会では予算を担保することにより、政策への責任と本気度が格段に上がっており、政策立案を経験した自信から、多くの分野での活躍が期待できるとともに、公務員や議員、各種審議会の委員になるなど、市政への積極的な参画が実現できている。課題としては、若者議会委員の定員割れが発生していることであるが、質疑応答の中で、教育委員会との連携はまだまだであるとのことなので、草加市で導入する際には、小・中学校の公民の授業で、市内の社会課題を抽出し、どういった解決策があるのか検討などを行うことにより、若者議会の準備ができることに加え、認知度が高まるのではないかと考える。

次に、新城市は行政主導の若者議会であるが、京都市や尼崎市では民間主導若者議会（ユースカウンスル）があるが、政策の選択においては、幅広い政策を検討することができ、行政主導よりもメリットがあるものの、予算の担保がなく、政策の実現性が乏しいため、民間主導よりは、行政主導の若者議会の方に優位があると考えます。

○吉岡委員

愛知県新城市の若者議会がこれまでに8回開催されてきた経緯には、以前よりニューキャッスル・アライアンス会議参加等の基盤がありスムーズに移行できたように思える。

ただ若者議会からの提案の実効性の確保は、現状及び今後の課題でもある中で、やはり予算を担保する執行部主導にならざるを得ない事は若者議会という制度の限界とも思える。

草加市においても、実効性の確保と財源との兼ね合いという難しい問題があるが、政策としての重要性は非常に大きく、今後の市の将来を考える人材育成のためにも前向きに検討するべきである。

○小川委員

現在、各自治体で市民参画の政策展開を心掛けていますが、愛知県新城市は「若者が活躍するまち」を目指して若者議会を立ち上げたとのことでした。

若者議会の具体的内容については、メンバー構成や会議の進め方とスケジュール、実際に提案された政策事例等を確認できました。併せて、OB・OGのその後については、まちづくりに携わる職に就かれたり、活動をされている方がいらっしゃるということで、まさに新城市が行っている若者議会は、高校生や大学生、社会人等、これらの若者に気付きの場を提供して種を蒔き実を实らせる、先進的で素晴らしい事業だと感じました。

その他

